

# 除災招福みちひらき 節分厄除祭

# 大和の光

## 3月号

《発行所》

大和教団  
仙台市青葉区錦町2-4-24  
大和教団本庁  
電話(代)022-261-2525番  
振替 仙台 02220-3-45512  
発行人 大和教団 定価50円



神紋  
八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

### 大和の言葉

神様は必ず、なにかの事を  
もって、あるいは誰かを通して  
御諭しの暗示を与えて  
おられる。  
(大和神典第三之〇九九言)



二月十七日の福神招福祭にて年末年始の全祭儀は修祭となった。教師の皆さまもよく務めて頂いた。心より労いた。

この一月三十日未明に教母さんの実兄が帰幽。八十六歳の生涯であった。三十日葬祭会館の霊安室にて私と教母さんとで、帰幽報告の儀を執行、翌三十一日教務総長齋主にて通夜祭竝(ならび)に遷霊祭の儀を、翌二月一日葬場祭、発柩祭、火葬の儀、帰家祭と齋行された。埋葬の儀は五十日祭後と予定されている。

私は二月六日の日に御霊安鎮之儀を齋行させて頂いた。神葬祭は、誠に丁寧なる祭儀となる。これまでも大和神葬の儀をお仕えされた方は大変有り難き感謝されている。教母さんもこれで身内の方は全員帰幽された。晩年は神社に参籠奉仕後、施設にて四年の生活、神社の皆さんにも大変お世話になった。教母さんもよくお世話された。幸せな晩年を過ごされたものと。誠に美しい穏やかな御顔であった。これからは祖霊殿と齊藤家の墓と大和帰神墓にて永代にお祀りをさせて頂く。帰神を乞い祈むものである。今月も特別神事も六座を奉行し、夫々の因縁解除の道を執らせて頂いた。

二十二日には新年役員会を開催、来年の立教七十周年に向けての教勢伸展をもつての提言を教務総長、事務総長よりなされた。私も心熱く語

らせて頂いた。私の開祖様とのお約束事でやり残せしを完遂せねばならないものと。己れの心魂に強く厳しく諭すものである。

昨年誕生祭にて、十一月三日に教統継承三十年の節目の年を御来賓、教信奉者の皆さんと共に御祝いをして頂いた。私の宗教人生においての活動が内より外への転換期ともなった。

大変有り難きことでは、平成二十一年十一月十二日の天皇陛下御在位二十年記念式典(政府主催)に参列翌十三日には宮中茶会にお招きを賜りて現今上陛下とも親しくお言葉をもち拝し賜った。またその十年後の、



平成三十一年二月二十四日の天皇陛下御在位三十年記念式典、二十六日の宮中茶会にもお招き賜った。誠に有り難きことであった。

また、平成二十三年三月十一日の東日本大震災を蒙った私共の地に、ご皇族の皆様が参られしごとへの報恩報謝の思いをもつて、第一回皇居勤勞奉仕大和奉仕団を立ち上げ、震災翌年の二月二十三日にお伝えさせて頂き、御会釈を賜りし際には天皇陛下、皇后陛下の御前にて御礼の言葉を熱く申し上げさせて頂いた。下賜されし温かきお言葉を私は終生忘れぬ宝とさせて頂いている。

当時、皇太子殿下での御前には

同班団長の推挙をもって万歳三唱の先達を申し上げた。

コロナ禍前に九回継続、教団は翌年団長の保積志胤は今上陛下の御前で、数年後には平松千明団長も先達の栄誉を頂いている。奇すしき御神導を拝する奉仕団となっている。

平成二十四年五月三十日、皇室の伝統を守る国民の会代表委員就任、二十六年六月二十六日、(公財)新日本宗教団体連合会理事長就任、同年六月三十日(公財)日本宗教連盟理事長就任、同年八月十五日、全国戦没者追悼式典にて宗教界を代表して献花、同年十月一日、美しい日本の憲法をつくる国民の会代表委員就任、平成二十八年十月五日、日本宗教代表者会議議長就任、平成二十九年三月十五日、安倍晋三内閣総理大臣へ「北朝鮮による拉致被害者の即時帰国を求める要望書」及び「署名簿」を提出。平成三十年九月三十日、文化庁創立五十周年記念表彰を授かる等々、多くの栄誉を賜った。

このことは大和教団の信仰に預かりしものにてのことである。「行ほど尊いものはない」との開祖様の御教えを、心に固め只管修行に修行を重ねてきたことによるものでもある。

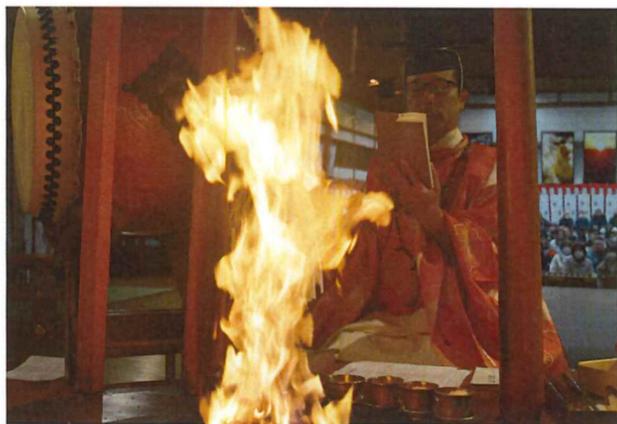
私のこれからの人生は、「大和の大御名で此の世を清め為せ」との聖願をもつて世の為、人の為に争いのない穏やかなる世とすべく、道の広布に努力精進させて頂くことを信念するものである。

教信奉者の信心の熱きを結集し、開教神大國主大神の御神命に副い奉りて、力強い教化布教の奉仕の展開を乞い祈む次第である。

令和八年二月二十三日

教主 秀胤

# 節分厄除祭



齋主教務総長による火祭祈禱が執行された

と登壇し「福は内、福は内、鬼は外、鬼は外、稔れ稔れ稔る」と盛大に豆まきが行われた。豆撒きの後、豪華賞品の授かる大抽籤会が行われ、幸栄幸運の抽籤会を楽しんだ。

## 教務総長御教話

「丙午」という本年、火の性が二つも重なっている年の巡りで、皆さんの夢や目標、目的に向かって熱く前進に前進を重ね、飛躍の年として頂きたいものです。そのような力を頂ける年です。その一方で、感情を露わにしたり、怒ったり、悪い言葉、悪い行いをしたりすると、取り返しの付かないことになるともされます。どうぞ、今年は穏やかに、そして熱く燃える魂をしっかりと燃やして、皆さんの命を輝かせて頂きたいと思えます。

二月八日午前十一時より大國神社祈禱殿において、齋主教務総長のもと節分厄除祭が斎行された。大勢の参列者のもと、齋主教務総長以下、祭員により祈願者一人ひとりの願言が大前に言上げされた。齋主玉串拝礼の後、金幣拝戴が行われ、参列者玉串拝礼が修められた。宝弓之儀では鬼門、裏鬼門へ所役の祈り詞によって三度神弓の矢が放たれ、魔を射祓い、次に齋主教務総長による豆打ちの儀が執行された。全方位に豆が撒かれ「天打ち、地打ち、四方打ちやらいて、鬼は外、鬼は外、福は内、福は内、稔れ稔れ稔る」の発声と共に一切が祓い清められ、祭儀は申し修められた。



齋主教務総長による豆打ち之儀



豪華景品の授かる抽籤会で大盛り上がり

祭儀でお唱えしました「トオカミ エミタメ」はあの世に行くまでずっと心に入れて、毎日どんな時にも唱えて下さい。「天地の神々よ、幸せを授け給え」という意味です。唱えれば、天地の神々が皆さんに直ぐに降りて、そして力を頂きます。どうか今年も毎日できるだけ唱えてみて下さい。神々より伝えられた祝詞ですから、しっかりと拝んで頂きたいと思えます。

皆さんがこれから生きていく上で、一番大事なことは、とにかく笑顔と感謝で生きることです。笑顔を稽古し、感謝も稽古して下さい。感謝の心も笑顔の心も無くなってしまうから、戦争、紛争、内戦も起るのです。皆さんの家庭の中でお互いに、「有難う御座います。」と笑顔で行って行けば、幸せになります。

それでは皆さん楽しくおだいこくさまの衣装をまもって豆を撒いて頂きます。皆さんに福をお分ちすると云うのがおだいこくさまの豆撒きです。怪我のないように楽しく豆撒きをして下さい。有難う御座いました。

# 令和8年新年役員会



議長教主様より御親教を賜る

「信仰へのみちしるべ」をもとに正しい大和の信仰生活について、笑顔と感謝の稽古について御教話を頂き、教主様より「敬信謝」について御教導を賜った。

次に平松千明事務総長より、信仰組織構築についての説明がなされ、信奉者の皆様の篤い思い、熱量をもつて一人が五人を導く運動を広めていくことの大切さが説かれ、吉野・奈良・比叡山参拝、三山萬人講登拝についての説明がなされた。

結びに教主様より、開祖様の歩んで来られた尊き御道について、大和帰神合祀墓・永代奉斎に関して、また祭事行事について御親教を賜り、「大和を信じて、信じて、信じて」とです。絶対に救われます。救われる皆さんになって下さい。」とお言葉を賜わった。



「弥栄祈念」をもって結ばれた

二月二十二日、午前十時三十分より大國神社祈禱殿において、令和八年新年役員会が開催され、教勢発展に向けての教導がなされた。司会進行役である畠山英教師より開会の言葉がなされ、先師先達並各地の自然災害による犠牲者、戦争・紛争の犠牲者へ黙禱が捧げられた。畠山真由美教務部長の先達により、大和の祈りが捧げられ、大和聖願・聖業が奉誦された。教主様よりお言葉を賜り、これまで教主様の歩まれて来られた略歴について、また此の大市神山にて顕現され続けている奇跡等についてお話を下さされた。続いて議長として教主様がかつかれ教務総長より、令和九年立教七十周年にあたり五千人を集える集会につ

**開祖様二十三年祭**  
**水万 児霊 地慰 蔵霊 祭祭**

開祖 保積史子比咩命

とき 3月22日(日) 午前10時  
 ※15分前までに着座下さい

ところ 大國神社祈禱殿・大國地蔵広場

開祖様への感謝のおこころをお捧げ下さい

# 立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

# 大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう

# 特別寒中火祭謹行結願行 禁厭神事第二座・節分祭



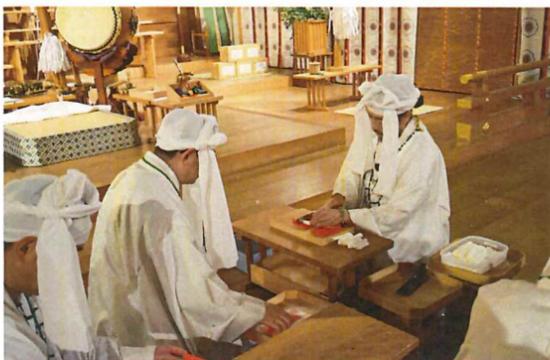
寒中の三十日間、火祭祈禱が厳修された

「寒中」の一月五日より二月三日までの三十日間に亘り、毎朝午前六時より大國神社祈禱殿において、大神様の神威を拝し奉る特別寒中火祭謹行が執行された。

まず修祓の儀の後、教務総長先達のもと大和祈詞を奉誦、綾瓊神歌にて御神名をお称え申し上げ、祝詞を奏上、信奉者一人ひとりの願旨が大前に言上げされ、大道神祇奉唱、火祭謹行が厳修された。

祝詞奏上の後、御神餅切の秘神事を執行、祈願者一同の願旨が神々に言上げされ、それぞれの悪因縁を断ち幸栄幸縁の道が願われた。祭儀後、茶礼にて教務総長より御

教話を頂き大和神典よりの御教えを戴き、参行者の体感談をもつて諸祭儀は滞りなく申し修められ、今年の特別寒中火祭謹行も無事結願行となった。



齋主教務総長による御神餅切秘神事執行

## 進 勸 山 伏 山 神 社 三 山 出 羽 新 年 祈 願 祭 第 18 回

一月二十五日、第十八回出羽三山神社山伏勸進新年祈願祭が大國神社祈禱殿において斎行された。此度、初めて奉行された磯貝智洋権宮司をはじめ、出羽三山神社山伏・伶人・巫女総勢七名のご奉仕となった。

本教の出羽三山登拝講は、開祖様の湯殿山でのご修行のご神縁に始まり、爾来九十八年目を数える歴史ある登拝講である。

各地でのご修行を積み重ねた開祖様は、出羽三山登拝においては心身を鍛え、運勢を安定させ、御霊の浄霊供養を

はかり、良縁をも結ぶ御神徳がある」と申されておられた。



大先達磯貝智洋権宮司による祝詞奏上



巫女により「松の祝」が奉納された

午前十一時、出羽三山神社の山伏が法螺貝を吹きて開祭が告げられ、大先達磯貝権宮司以下が入殿、祭場に集われし参列者は皆、威儀を正してお迎え申し上げた。

儀式は修祓、大先達一拜、献饌、大先達による三語、祝辞、拝詞奉唱と続き、綾瓊神歌では大和皇大神・大國主大神、出羽三山大神をお称え申し上げ、火祭祈禱が執行、祝詞奏

上の中で祈願者一同の願旨が言上げされた。巫女舞「松の祝」が奉納され、大先達玉串奉奠の後、教主様による玉串奉奠がなされた。引き続き、総裁家、責任役員一同代表者玉串奉奠が修められ、撤饌、大先達一拜をもつて修祭となった。教主様より、新たに権宮司にご就任になられた磯貝権宮司へのお祝いと、此度の山伏勸進における諸々のご協力に對して御礼が述べられ、更に開祖様が神様の道に導かれた信仰



磯貝智洋権宮司によるご挨拶



教主様よりご挨拶を頂く

## 外寒行記

寒行巡拝奉仕をさせて頂いて  
祭儀部次長 熊川知長

本年も一月五日より、明の方位の地域から始まった外寒行は二月二日の芋沢地区まで行われました。各地域、教信奉者のお宅の玄関先で厄難消滅、家内安全、無病息災、身上安全を一心に祈念する厳しき寒祈禱です。日頃から月祝いをさせて頂いているお宅から、関係企業、崇敬者、神社の地元近隣の方々まで、里々、家々の一件一件を廻り、お祝いの、ご祈念を申し上げます。伝統の山伏宝冠白装束姿で伺いご

祈念を申し上げると、飲み物や食べ物を用意して下さる信奉者の方もおられ、寒さ厳しき折皆様の暖かいお気持ち有り難く拝し奉りました。信奉者の方の中には、若い世代へ継承となるご家庭も次第に出て参りました。



信奉者宅を寒行巡拝申し上げた

# 大國神社例大祭

創社五十一周年記念

御神縁に結ばれて  
幸縁幸福を授かりましょう

令和八年四月二十九日(祝)

午前十時斎行

# 福神招福祭

旧暦元日を迎えた二月十七日午前十一時、大國神社祈禱殿において福神招福祭が斎行された。

日本神話で大國主大神が大穴牟遲(おおあなむぢ)と呼ばれていた頃、根の堅州国で建速須佐之男命の試練を受けた際、子(ねずみ)の助けを得て試練を乗り越えた逸話が残されている。「子」とは十二支の初めであり、種子が新しい生命を宿して芽吹きはじめることを意味する。この神祭は、その生命の息吹の日(旧暦元旦)に大國主大神様とのご神縁をより強く結ばれ、この年の福徳を授かる神事である。



斎主教務総長による祝詞奏上

先ず、開祭詞が告げられ、修祓の後、斎主教務総長より福神招福祭詞が奏上された。斎主玉串拝礼の後、御鈴拝戴神事が行われ、参列者玉串拝礼をもって修祭となった。続く福授抽籤会では籤が一枚ずつ引かれ、神々の神威蒙る福神の縁起物として

当籤者の皆様  
おめでとうございます

当籤番号	
賞	(中) 0279
熊手	(小) 0283
熊	(大) 0905
幣	(大) 0687
幣	0431
白	0914
黄	0866
招	0400
1等	0539
2等	0878
3等	0004
	0525
	0443
	0591
	0878
	0391
	0992
	0887
	0247
	0261
	0135
	0134
	0730
	0013
	0726
	0947
	0099
	0069
	0618
	0708
	0395
	0901
	0444
	0991
	0699

## 紀元祭

「福神招福祭大御幣」「熊手」「破魔矢」「千支置物」等が夫々抽籤された。申込者は皆、本年の福縁を授かり、この一年を除災招福、家内円満に護られるものである。

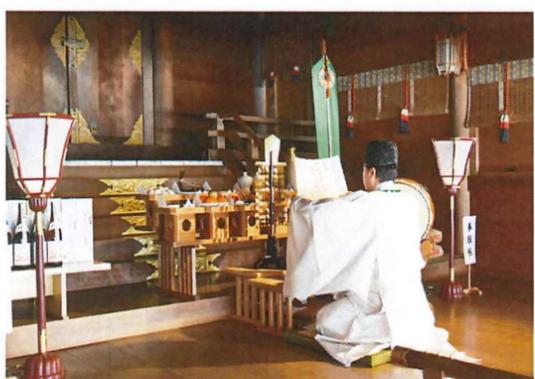


建国の偉業をしのび紀元祭が斎行された

二月十一日、皇紀二六八六年の紀元祭(建国祭)が大國神社御本殿において、斎主熊川知長祭儀部次長により斎行された。

## 祈年祭

紀元祭とは神武天皇が大和の橿原宮で初代天皇に御即位され、日本国を建国したことによる由来をみる祭儀である。日本書紀によると神武天皇が御即位されたのが辛酉の年正月一日であり、太陽暦において現在の二月十一日となり、この日が紀元祭と定められている。



国家安泰・五穀豊穡が祈られた

二月十七日、大國神社御本殿において、斎主熊川知長祭儀部次長により祈年祭が執行された。祈年祭とは、としごいのまつりとも呼ばれ、としは稲の美称、こいは祈り、米や五穀の豊かな稔りを祈ることを意味し、人々の産業全般へのご加護を賜るべく祈念を申し上げる尊い祭儀である。神前には海川山野の神饌物が供えられ、祈年祭詞が厳かに奏上、玉串奉奠後修祭となった。

## 天長祭

世界を見渡すと、各地における戦争・紛争の解決の糸口が見えず、長期化している。また頻発する大規模自然災害よりの復旧復興の遅れなど国の内外で様々な課題に直面している現状である。大神様の大御稜威、御加護を賜り国家安泰、五穀豊穡、また里々々々の国民の無病息災・疫病退散が祈念された。



天皇陛下の御誕生日を奉祝申し上げた

二月二十三日、天長節の佳き日、午前十時より、大國神社御本殿において、天皇陛下の御誕生日を奉祝申し上げる天長祭が、斎主熊川知長祭儀部次長のもと斎行された。御神前には季節の神饌が供えられ、厳かに祝詞が奏上された。先ず国歌「君が代」が斉唱され、修祓の後、天皇陛下のご長寿と益々のご健康と御皇室の弥栄、さらには日本国家、国民の隆昌をご祈念申し上げ、聖寿万歳をもって祭儀はお仕えされた。

「りくりゅう」に想う

令和八年も早三月を迎え早くも春の足音が間近に迫っております。二月にはミラノ・コルティナオリピックが開催され、日本人の活躍は記憶にも新しいことと存じます。

中でも日本中を感動の涙で溢れさせた「りくりゅう」こと三浦璃来選手と木原龍一選手。氷上に立つ二人の「信頼」が放つ強烈な光は金メダル以上に輝いておりました。

日本のフィギュアスケート界において、長らく「未知の領域」とも言われ、低迷を続けたペア種目。その歴史を切り拓いてきた二人が、オリンピックの舞台で見た姿は、単なる技術の高さだけではありませんでした。それは「強さ」よりも「信頼」であったのかと。フィギュアスケートのペア競技は究極

の信頼関係のスポーツであると思えます。数メートル宙に投げ上げるスロージャンプ、頭高く持ち上げるリフト…。それをパートナーに全て委ねるのです。ほんの僅かな迷いやミスが大げかに繋がることは想像に難しくありません。繰り返して流れる映像を見て感じたことは「りくりゅう」の演技からは全く怖さは感じられず、安心、信頼の深さが溢れておりました。三浦選手の跳躍は伸びやかで、木原選手の支えは大切なものを包み込むごとくの柔らかさを感じました。そこには力でもねじ伏せるような感覚ではなく「大丈夫」という無言の会話があり、絶対の信頼があるからだと感じ取らせて頂きました。オリンピックという極限の舞台で、その空気を崩さないこと、それこそが、二人の本当の強さの証しであるのかと思います。

演技後に交わす笑顔と感動の涙、失敗があつても崩れない絆、お互いを称えあうまなざし。その全てが「りくりゅう」でありスポーツの原点を思い出させてくれました。「りくりゅう」の活躍は私たちの日常にも重なる物語でもあるのかと思っております。大和の信仰者である皆様には大和の信仰を通じて、何が有っても決して諦めない心を養って頂ければと存じます。(平松千明)

### 4月行事予定表

- 4月1日 朔日火祥神事
- 4月4日 かたくり祭(4月下旬)
- 4月5日 神光龍神祭
- 4月11日 開教記念日
- 4月12日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
- 4月12日 大和開教祭・記念式典
- 4月15日 月次祭・五講祭
- 4月19日 春の清掃奉仕
- 4月25日 開祖祭
- 4月27日 六根修養会
- 4月28日 大國神社例大祭前日祭
- 4月29日 大國神社例大祭

### 5月行事予定表

- 5月1日 朔日火祥神事
- 5月5日 神光龍神祭
- 5月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
- 5月12日 綾里立石神社奉拜
- 5月15日 月次祭・五講祭
- 5月23日 みそぎ大行(24)
- 5月25日 開祖祭
- 5月28日 六根修養会

## かたくり祭 4/4~4月下旬



100種類を超える山野草が咲き誇る 大國神社山野草公園